

# アカデミックインターンシップの全学的展開 — 教育とキャリアの融合をめざして —



## ■ 中央大学のインターンシップの理念と目標

理念：明確な教育目標に基づき知的基礎体力と実践力を備えた人材を育成する。

目標：

＜アカデミックインターンシップ＞

（専門教育科目として実施）

＜キャリアデザインインターンシップ＞

（進路・就職支援として実施）

- 学習の動機づけ
- 学習した知識・理論を実地の場で実証・応用
- 実践力の育成

- 国際的視野の育成
- 自己発見
- 他者への共感

- 職業観の育成
- 起業家精神の育成
- 自己の興味・適正の認識

## ■ 実施に至るまでの決定プロセス

### ＜インターンシップの導入＞

1991年 12月	経済学部教授会で新学科設立準備委員会の設置を了承。
1993年 4月	公共経済学科の開設。「ビジネスインターンシップ」を設置。
1995年 4月	「ビジネスインターンシップ」（3年次配当）を開講。
1998年 4月	公共経済学科から経済学部全学科へ履修対象を拡大。
1998年 9月	学長・学部長会議でインターンシップについて検討。
1999年 1月	学長・学部長会議で本学におけるインターンシップの基本方針を決定。
1999年 3月	学長の諮問機関として「インターンシップ連絡会議」を設置。

### ＜アカデミックインターンシップの拡大＞

2001年 4月	文学部教授会の決定に基づき、学校インターンシップ、図書館インターンシップを開始。
2002年 4月	理工学部教授会の決定に基づき、「インターンシップ」を開講。
2002年 4月	総合政策学部教授会の決定に基づき、「国際インターンシップ」を開講。
2003年 4月	法学部教授会の決定に基づき、法務、行政等のインターンシップを開始。
2003年 7月	商学部教授会で「インターンシップ実習」等の設置を承認。

### ＜キャリアデザインインターンシップの発展＞

1999年 6月	本学独自のキャリアデザインインターンシップを開始。
2002年 12月	学長の諮問機関「キャリアセンター検討ワーキンググループ」（WG）を設置。
2003年 4月	就職部をキャリアセンターに改組。
2003年 7月	同WGが「本学におけるキャリア教育充実に向けての提言と提案」を答申。

### ＜アカデミックインターンシップとキャリアデザインインターンシップの融合＞

2003年 7月	学長・学部長会議で「キャリア教育委員会」の設置を承認。現在、設置準備中。
----------	--------------------------------------

## ■ 中央大学におけるインターンシップ実施状況（2003年7月現在）

		経済学部	文学部	理工学部	総合政策学部	法学部	商学部
学部全体	単位認定あり	アカデミックインターンシップ	学校インターンシップ／2001年度開始 図書館インターンシップ／2001年度開始	インターンシップ／2002年度開始	国際インターンシッププログラム／2002年度開始	インターンシップ（国際、行政、NPO、NGO、法務）／2003年度開始	インターンシップ入門、インターンシップ実習、ボランティア実習／2004年度開始
キャリアセンター	単位認定なし	テーマ：多様な価値観発見から創造へ キャリアデザインインターンシップ／1999年度開始 インターンシップ・ガイダンス、インターンシップ・フェア、事前研修（講義：マナー）、インターンシップ・フォーラム（体験報告会）の実施など 体験報告書の作成、インターンシップ・ハンドブックの配布					

# 法学部 インターンシップ

## 1. インターンシッププログラムの正規講義科目としての設置目的と教育目標

- みずからが学んだ知識や理論の実際を検討・検証する。
- 仕事の内容やその実態を体験的に理解する。
- 仕事の社会的意義を理解し、社会貢献への意識や就職への動機づけを高める。

法学部では、上記3項目をアカデミックインターンシップ設置目的とし、その設置目的を具体的に実現するために、

- ① 学生の社会への関心を醸成するとともに、自己と社会の関係を考えるきっかけとしてもらう“自分探し”
- ② ペーパーテストでは評価できない、情報発信型能力などの新たな能力の開拓
- ③ インターンシップを通じて知り合ったヒトとの情報ネットワークの構築

を教育目標として取り組んでいます。

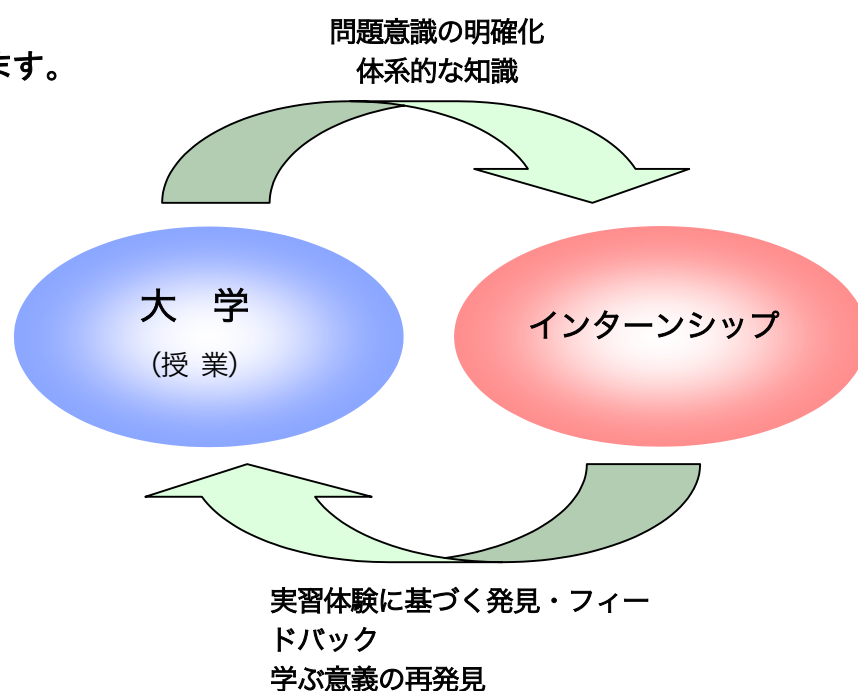
## 2. インターンシップの実施形態

### 1) 演習方式講義+夏休み中の実習(+準備研修+事後報告)で4単位を認定します。

前期中に実施される演習方式講義、実習前の準備研修(マナー研修、プレゼンテーション研修)、夏休み中の実習(10日間以上)、そして実習後の実習報告書の作成及び体験報告会により4単位を認定します。

前期の授業でインターンを行う分野について体系的な知識を学ぶことにより、実習にあたって明確な問題意識を持って取り組むことができるのが大きなメリットです。また、実習や実習後の発表や報告書作成を通して「なんのために学ぶか」「実際に働く場面でどんな知識が必要なのか」を深く考えることになり、大学で学ぶ意義を再認識することもできます。担当教員からアドバイスを適宜受けることができるのも、キャリアセンターや外部機関で実施しているインターンシップにはない利点と言えるでしょう。

### 2) 「国際」、「行政」、「NPO・NGO」、「法務」の4コースが設置されています。



### 国際

外務省、国連大学、国際協力機構(JICA)など(23)  
※ 海外機関も可能

### 行政

渋谷区、三鷹市、八王子市、町田市、多摩市、武蔵野市など(16)

### NPO・NGO

自身が希望する団体について審査・認定  
※ 2003年度  
Save The Children Japan、江戸東京博物館、NGO・PRAYAS(インド)など(5)

### 法務

シティユーワ法律事務所  
みぞぐち法律事務所(10)

\* ( )内の数字は、2003年度履修者数。

\* 「国際」、「行政」、「法務」は、指定された実習先から本人の希望を調査のうえ(マッチング作業)、派遣先を決定します。

「NPO・NGO」は、学生自身が希望する団体と交渉のうえ、実習先を報告・審査を受ける認定インターンシップとなっています。

<選考過程>

説明会 → 書類審査(志望理由・諸技能・将来計画・学習計画等)、筆記試験等が課される可能性あり → 面接審査

## 3. 参加学生からのコメント

大学で勉強したことが、自習を通じて体感することができた。自分の将来が見えてきた。

# 経済学部 インターンシップ

本学経済学部では、1993年の公共経済学科設置に伴い、自治体等での実習を中心とした「インターンシップ」を正規授業科目として導入しました。この「インターンシップ」は単なる実習にとどまらず、派遣先との綿密な連携による事前・事後指導を充実し、高い学習効果をあげてきました。現在はシンクタンクや新聞社などにも派遣先を拡大し、多くの学生に実地学習の機会を提供しています。

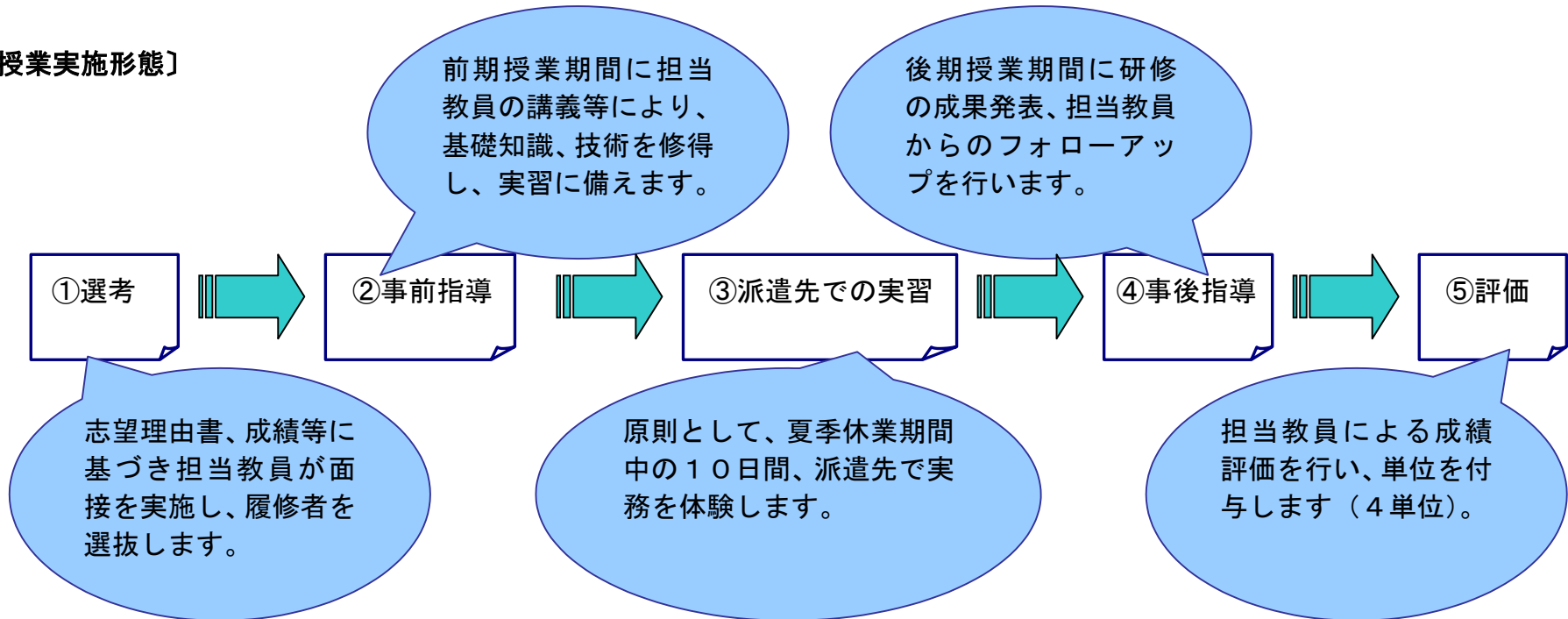
## 【理念】

大学において学習した専門知識・理論・政策などを、公共機関や民間企業等での実地研修を通して、応用、実践する能力を養成し、社会において有用な人材を育成する。

## 【目的】

- ①専門知識（理論・政策）の応用と実践能力の育成およびその役割の理解
- ②自治体、企業の役割と業務内容の理解
- ③職業マインドおよび職業選択力の育成

## 【授業実施形態】



## 【コース概要と派遣先】 ※2003年度実績

### 【自治体Ⅰ（区市町村）】

公共機関の現場での実地研修を通して、今日の地域社会の重要なテーマである「環境・ゴミ問題、高齢化、国際化、情報化、防災」などの具体的な問題について学習します。

- ◆板橋区役所 ◆葛飾区役所 ◆稲城市役所
- ◆多摩市役所 ◆八王子市役所 ◆日野市役所
- ◆三鷹市役所 ◆武蔵野市役所 ◆所沢市役所

### 【自治体Ⅱ（都道府県）】

広域自治体である都道府県レベルでの公共政策を学ぶコース。東京都庁OBの実務専門家を客員講師として招き、ゼミ形式で学習を進め、実習でそれを深める実践的研究を行います。

- ◆東京都関連施設

### 【シンクタンク】

一定の問題意識に基づいて課題を設定し、論理を構成し、資料や情報を収集して、まとめて成果を発表できるようにすることを目指します。

- ◆株式会社 情報通信総合研究所

### 【民間企業（情報系）】

情報処理に関する知識・技術を実務環境の中で研修することにより、情報処理の実務能力を高めるとともに、企業における組織および業務の理解を深めます。また、対象業務の範囲を企業の情報部門や営業部門にまで広げ、幅広く実務を体験することができます。

- ◆株式会社 日立製作所 ◆日立キャピタル 株式会社
- ◆株式会社 日立ハイテクノロジーズ
- ◆株式会社 SRA ◆VTVジャパン 株式会社
- ◆特定非営利活動法人 先端教育情報研究所

### 【ジャーナリスト】

新聞ジャーナリズムとは何か。求められる人材とは。新聞界の実情を新聞社での実地研修を通して学び、ジャーナリストの養成を目指します。

- ◆株式会社 朝日新聞社 ◆株式会社 産経新聞東京本社
- ◆株式会社 日本経済新聞社 ◆株式会社 毎日新聞東京本社
- ◆株式会社 読売新聞東京本社 ◆株式会社 スポーツニッポン新聞東京本社

# 理工学部 経営システム工学科 インターンシップ

## 1. インターンシップの理念・目的

「経営システム工学」とは、社会および地球環境も考慮にいれた広い視野に立ちながら、情報技術を含めた工学的手法の適用を通して、組織の運営の最適化および効率化をはかるための方法論である。本科目では、企業が提供するインターンシッププログラムに参加し、各々の企業・組織が困っている・取り組んでいる具体的な課題に関するデータの収集・解析・提案等を行う。これを通して、経営システム工学科で学んでいる内容が実際の場面でどのように役立つのかの理解を深めることがねらいである。

## 2. インターンシップの実施形態

### ○ 基本的考え方

- ・大学（キャリアセンター）が斡旋しているもの、各企業・団体が公募しているものの中から自分にあったものを主体的に見つけて参加する。
- ・内容が経営システム工学科の専門科目として認められるものであれば、申請に基づいて単位（2単位）を認定する。

### ○ 単位認定の前提条件

- ・参加するインターンシップがテーマまたはコースを設定しており、その内容が経営システム工学科での専門教育（経営工学、数理システム工学、応用情報システム等）の内容と密接な関係がある。
- ・期間が実働10日以上あり、夏期休業中等、正規の授業に支障がない。
- ・2年次終了時80単位以上を修得しており、「テクニカルプレゼンテーション」、「経営システム工学実験A」の単位を修得している。また、「経営システム工学実験B」を履修している。

### ○ プログラムの運営

5月：キャリアセンターによるガイダンス、学科による履修希望者に対する履修方法ガイダンス。

5～7月：学科の学習指導委員による個別面談。キャリアセンターが斡旋しているもの、各企業・団体が公募しているものの中から自分にあったものを見つけ、申し込む。

8月初旬：キャリアセンターの事前研修（マナー講座）に参加。損害・通勤災害保険加入手続（保険金は自己負担、理工学部事務室が担当）。

8～9月：インターンシップへの参加。  
終了後、インターンシップ報告書をキャリアセンターおよび学科に提出。

11月：成果発表会での報告・発表（経営システム工学科全教員および2～3年生の希望者）

### ○ 受入先機関

2002年度 ㈱日立製作所

2003年度 NTTコミュニケーションズ(株)、ユーカード(株)、さくら情報システム(株)

区分	キャリアデザインインターンシップ(CDIS)	経営システム工学科インターンシップ	
		大学が窓口のCDISを利用	企業が公募しているインターンシップを利用
募集	キャリアセンターおよび学科ガイダンス(5月)に参加		
	募集揭示	インターネット等を活用し各自で行う(相談はキャリアセンターまたは学習指導委員へ)	
	応募書類の提出		
	企業による選考 可否通知		
事前準備	単位認定申請書の提出(個別面談)		
	プログラム内容の審査		
	単位認定の前提条件可否の通知		
	企業との契約		
参加中	事前研修(心得・マナー講座)の受講		
	保険手続き		
	インターンシップの参加・実施		
終了後	参加中の事故・トラブルの連絡・対応		
	インターンシップ実施状況の受け入れ先担当者による評価		
	報告書(A4、2枚)をキャリアセンターへ提出		
	報告書(A4、10枚程度)の提出		
	インターンシップ報告会(キャリアセンター主催)		
	成果発表会(11月)での発表・評価		
	単位追加登録書の提出		
	単位認定・単位認定事務手続き		

## 3. インターンシップの評価方法

単位認定の前提条件を満たした上で、ガイダンス・個別面談・事前研修への参加、報告書の提出、成果発表会での報告を行うことを単位認定の最低条件として求めている。成績は、研修中の企業担当者による評価、および経営システム工学科教員による報告書および成果発表会における発表内容の評価の両方を勘案し、評価している。

## 4. インターンシップ参加学生のコメント

- ・実際の職場の雰囲気を感じられたことや、そこで働く人たちとのコミュニケーションがとれたことは、本当に良かった。自分の将来を考えていく上で、大きく視野が広がった。
- ・具体的な仕事というものを体感できた。企画から開発、提供、保守までの全体像を見渡せた。
- ・実際に生の現場を体験することができた。自分の将来、企業への関心が高まった。就職への意識が高い仲間めぐり合えた。

# 文学部 インターンシップ

文学部では、2001年度から「学校インターンシップ」を、教育学科心理学コースで導入しています。

## 1. 学校インターンシップとは

文学部と八王子市教育委員会の協定に基づき、八王子市内の小・中学校において実習をするものです。

児童・生徒の学校不適応などを中心とした教育課題の解決や、学生を地域人材として活用することにより、教育活動の充実・発展に貢献することを目的としています。

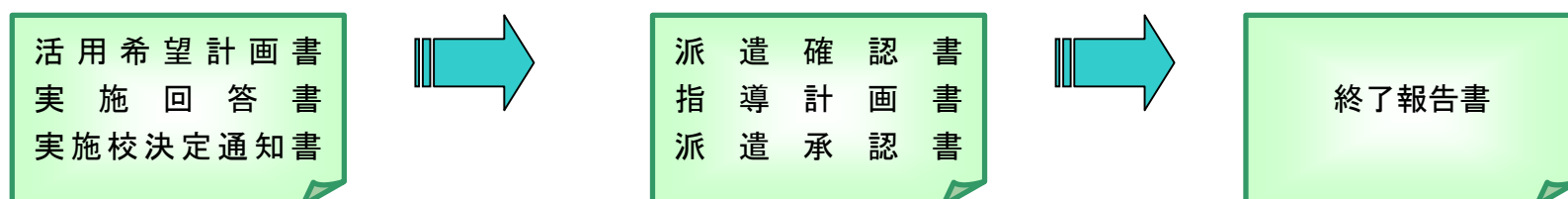
小・中学校での学生の活動は、大学の正規科目であり、単位として認定されます。

## 2. 授業実施形態

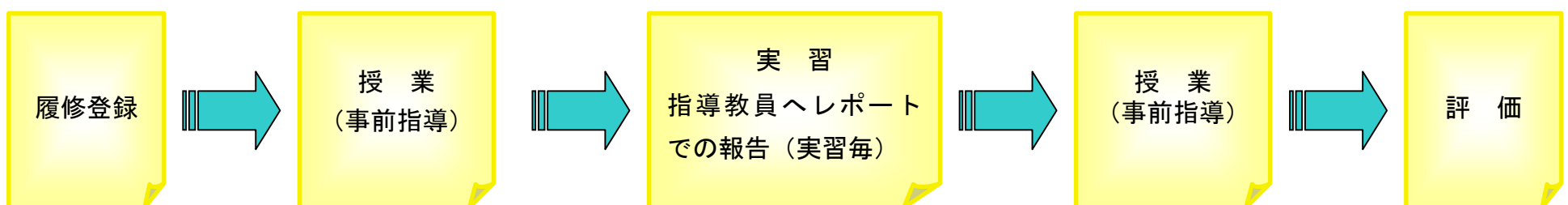
思春期の子ども心理について学習する「発達心理学」と教育相談やスクールカウンセリングについて学習する「臨床心理学」の二つの専門分野の学生が、保健室や心の教室で週1日教育相談やふれあい活動を行っています。

2003年度は6校の小・中学校で21名が実習しています。

### ～八王子市教育委員会と大学の手続き～



### ～学生の手続き～



### 学生コメント

- ・直接児童・生徒と接することで、子どもへの接し方や子どもたちが変化していくようすがや発達の様子がよくわかり大変勉強になった。
- ・生徒と教員の両方の立場を理解し、それぞれの視点で学校を見ることができた。

### 教員コメント

- ・子どもたちと直接ふれあうことで、学生自身が成長していく様子がわかり大きな成果だと感じる。

# 総合政策学部 国際インターンシッププログラム

Learning in Action, Learning for Action

相互依存性が深まる世界にあって、個人が社会や人々とのつながりの中で働きかけインパクトを与える主体であることを自覚し、いかに生きるかを自身に問い、現実をよりよく変革していく力としての学問を身に着けることに向き合う教育が必要とされています。総合政策学部の国際インターンシッププログラムはこれに応える試みの一つとして2002年4月に導入されました。大学の学びと現実社会での学びを結合し、自身と社会の関わりを通して「生きる力」を培うプログラムであり、そしてこれまでの一方向の垂直的な関係から双方向の水平的な関係への教育手法の転換を図ることによって、自立した社会人としての学生の成長を促すプログラムとなっています。

## I. VISION

変容する社会にあって、ひとりひとりの学生が現場・他者とのかかわりを通して主体性や責任感を育み、来るべき社会を創成する価値と方策を模索し、その実現に向けて自ら行動していくこと

## II. MISSION

国際インターンシッププログラムは

1. 自らと社会とのかかわりを見つめなおす機会を提供します（認識）
2. 自らが生きる社会において、自分が何をすべきか、自分に何ができるかと考える機会を提供します（模索）
3. 主体的な行動を通して社会とのかかわり、自らの在りようを再認識する機会を提供します（行動・再認識へ）

## III. STRATEGY

プログラムの構成		プログラムのねらい
<b>経験学習 (Integrated Course : 7 単位)</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティカルな視点を身につける</li> <li>・他者への関心と共感能力を養う</li> <li>・自己発見を促す</li> <li>・他者との連帯を促す</li> <li>・想像力・創造力を身につける</li> <li>・企画・立案・運営能力を養う</li> <li>・ふりかえりを促す</li> </ul>
国際インターンシップⅠ	半期 2 単位	
国際インターンシップⅡ	半期 2 単位	
フィールドスタディーズ	2 週間 1 単位	
国際インターンシップⅢ	半期 2 単位	
<b>就業体験</b>		
国際インターンシップⅣ	6 ヶ月 4 単位	
国際インターンシップⅤ	1 年 8 単位	

## II. 就業体験(3・4年次)

- インターンしたい機関を探す
- コンタクトを取る
- 交渉する
- 渡航・生活開始
- インターンとして業務を行う
- 継続的に担当教員の指導を受ける
- 評価を受ける
- 報告書作成・報告会実施(帰国後)

\* 奨学金支給有

## I. 経験学習(1年次～)

### 4. 国際インターンシップⅢ

- 報告書作成・報告会実施
- クリティカルな視点、自己発見
- ふりかえり、企画立案運営
- さらなるアクション
- 社会的責任、empowerment
- 他者との連携



### 3. フィールドスタディーズ

- 各種機関・サイト訪問
- 社会的マナー、企画立案運営能力
- ホームステイ
- 他者への関心と共感
- ディスカッション
- 自己発見、ふりかえり

\* フィールドスタディーズ参加学生への補助金有

### 1. 国際インターンシップⅠ

- Critical Reading
- サマリーペーパーの提出&引用の徹底
- 知識の再構築
- 水平な関係の授業



■■■■■ **実績** ■■■■■

	経験学習	就業体験 (派遣先)
2002年度	<b>Sri Lanka Course</b> Study-Service Tour in Sri Lanka	小学校(スウェーデン) 開発コンサルタント企業 (ブラジル) 子ども支援 NPO・ <a href="#">PRAYAS</a> (インド) 環境保護 NPO・ <a href="#">Greenbelt Alliance</a> (米国) 低所得者向けハウジング支援 NPO・ <a href="#">Asian inc.</a> (米国)
2003年度	<b>U.S. Course</b> Where "Service", "Participation", and "Community" Meet  <b>Sri Lanka Course</b> Study-Service Tour in Sri Lanka  <b>Australia Course</b> Sustainable Living Immersion Program at Crystal Waters	オーストラリア国会議員インターン <a href="#">農村開発 NGO</a> の有機農業センター(スリランカ) <a href="#">旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所</a> (オランダ・ハーグ)

■■■■■ **プログラムから生まれたさらなるアクション** ■■■■■

企画名
<p><b>スリランカ写真展：『Dawn of Hope』 ～スリランカ、和平への道のり～</b></p> <p>“Study-Service Tour in Sri Lanka 2002”参加学生運営の写真展。2003年6月、東京で開催されたスリランカ支援国会合を機会に、中央大学後楽園キャンパスおよび同多摩キャンパスにて10日間にわたり開催された。総入場者数は約1000名。</p> <p><b>主催：</b>中央大学総合政策学部 <b>共催：</b>The Associated News of Ceylon Limited (スリランカ新聞社) <b>後援：</b>外務省、国際協力銀行、スリランカ大使館、毎日新聞社</p>
<p><b>シンポジウム：Celebrate Diversity - 多様な社会を考えよう -</b></p> <p>2003年夏に実施されたU.S. Course フィールドスタディー参加学生企画のシンポジウム。日本障害者リハビリテーション協会実施の研修に参加するため来日中の、アジア7カ国からの障がい者の方々を招き実施された。講演の他、グループディスカッションも設けられる参加型のシンポジウムとなった。</p> <p><b>共催：</b>中央大学総合政策学部国際インターンシッププログラム 財団法人日本障害者リハビリテーション協会</p>
<p>他、プログラム参加学生による・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の小学校2校での国際理解教育</li> <li>● 地域の中学校でのサタデースクールサポート活動</li> <li>● スリランカ初の少年野球チームへの中古野球グッズ寄贈、and more!</li> </ul>

■■■■■ **Workshop Series for Thought and Action** ■■■■■

Workshops 2002.10 - 2003.11
「自分の生き方を決めるのは自分：あなたはどんな風に生きていきたいですか」 NPO キャリナビ代表・平尾ゆかり氏
「カマル・フィヤルさんと学ぶPRA (参加型農村開発手法)」 ネパール人ファシリテーター・Kamal Phuyal 氏
「Sarvodaya's Approach to Community Development」 スリランカ NGO サルボダヤ専務理事・Vinya Ariyaratne 氏
「スリランカの紛争と復興支援について」 国際協力銀行開発第2部スリランカ・バングラデシュ担当課長岡崎克彦氏、 同開発金融研究所研究員金丸素子氏
「対スリランカ日本 ODA と JICA のプログラムについて」 国際協力事業団アジア第2部南西アジア・大洋州参与米林徳人氏
「Evening Coffee with 日下部元雄氏」 世界銀行副総裁・日下部元雄氏
「Business Plans that Work」「Successful Networking」 ウィスコンシン大学マディソン校ビジネススクール・Joan Gillman 氏 株式会社楽天取締役・本城慎之介氏
「Introduction to Community Driven Development」 世界銀行スリランカ事務所上級農業経済官・Terrence Abeysekera 氏
「Introduction to PRA (Participatory Rural Appraisal)」「What Makes A Good Facilitator?」 恵泉女学園大学学生との合同ワークショップ ネパール人ファシリテーター・Kamal Phuyal 氏 恵泉女学園大学教授・(特活) シャプラ・ニール代表理事大橋正明氏
「Values at Work : Novo Nordisk's Triple Bottom Line Approach」 Novo Nordisk 社 IT & Finance 部門部長・Lars Ferguson 氏
「JBIC's Partnership with NGOs: Lessons from Bangladesh, Sri Lanka, and Viet Nam」 国際協力銀行スリランカ・バングラデシュ・ベトナム支店ローカルスタッフ3名、同東京本店3名
「国際 NGO で働く」 Global March against Child Labor インド事務所キャンペーンコーディネーター・富田沓子氏
「You Can Make A Difference : 建築を通して国際ボランティア」 Habitat for Humanity 日本事務局 Dawn Lehman 氏他1名、神田外語大学生4名
「"学び" : "自由の反対にあるもの"から考える」 千葉県幕張本郷中学校教員・鈴木大裕氏他中学生3名、社会人4名
「Introduction to PRA (Participatory Rural Appraisal)」 ネパール人ファシリテーター・Kamal Phuyal 氏

**プログラムの運営**

総合政策学部教務・カリキュラム委員会の下に置かれた「国際教育プログラム小委員会」(教員5名、職員3名)が運営に当たっています。

プログラムは[財団法人岩國育英財団](#)の支援を受けています。

# キャリアデザイン・インターンシップ

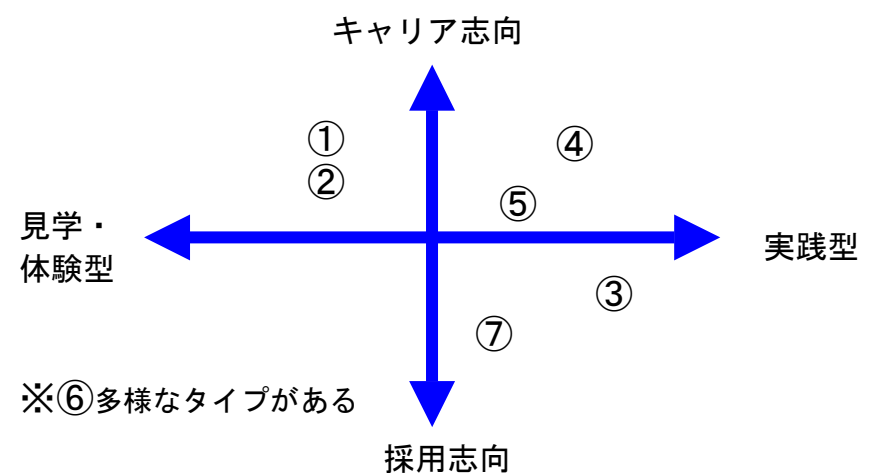
## 1. キャリアデザイン・インターンシップの目的

- ① 就業体験を通じて実社会のニーズや課題、自己の興味や適性、能力等を知ることにより、大学で何を学ぶかを主体的に考える契機とする。
- ② 大学で学んだ知識や取得した資格・スキル等を実社会で応用することにより、将来の職業や進路について具体的に考える契機とする。
- ③ 1・2年次から社会との接点を持つことにより、社会的移行をスムーズに行えるようにする。
- ④ 起業家精神を養い、新しい価値創造に貢献できる人材を育成する。
- ⑤ 海外での就業体験により国際的視野に立ったものの見方・考え方を身につけさせる。

## 2. 主なプログラム (コンセプト: 多様な価値発見から創造へ)

- ① 企業等とキャリアセンターとの個別契約プログラム (実施)
- ② 行政機関等が実施する行政インターンシップ (仲介)
- ③ NPO法人ETIC. 主催ベンチャー企業インターンシップ (仲介)
- ④ ドイツ・フィリピン等の海外インターンシップ (仲介)
- ⑤ 日本経団連主催インターンシップ (仲介)
- ⑥ その他、団体等インターンシップ (仲介)
- ⑦ 企業等の一般公募プログラム (紹介)

\*それぞれのプログラムのタイプ



## 3. インターンシップの実施形態

### ■ 実施スケジュール (文系・理系)

時期	文系	理系
5月下旬	インターンシップ・ガイダンス参加 (インターンシップの理解)	インターンシップ・ガイダンス参加 (インターンシップの理解)
6月上旬	インターンシップ・フェア参加 (プログラムの紹介)	
6月中旬	各プログラム参加申し込み	
6月下旬	行政インターンシップ参加申し込み	各プログラム参加申し込み
6月下旬	学内選考	
7月中旬	保険加入受付 事前マナー研修・講義 (行政) 参加	
8月上旬	インターンシップ開始	事前研修参加 インターンシップ開始
9月中旬	インターンシップ終了	インターンシップ終了
9月下旬	体験報告書提出 (成果の検証)	体験報告書提出 (成果の検証)
11月中旬	インターンシップ・フォーラム参加 (インターンシップ体験報告会)	インターンシップ体験報告会

### ■ インターンシップ参加者数推移

年度	参加者数
1999年度	21 (10)
2000年度	40 (15)
2001年度	91 (38)
2002年度	90 (38)
2003年度	111 (50)

( ) 内は女子の参加者数、内数

### ■ 事前研修

講義「公務員の仕事と心がまえ」  
マナー、コミュニケーションとプレゼンテーション 各3時間

### ■ 事故補償

キャリアセンターが窓口となって実施・仲介するプログラムは、原則として内外学生センターの「インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険」(略称「インターン賠」)への加入を義務づけている。

### ■ インターンシップ実績

文系	【行政】	農林水産省、文部科学省、東京都庁、横浜市
	【NPO】	ETIC. 女性と仕事研究所、多摩NPOセンター
	【法律事務所等】	飯田法律事務所、虎門中央法律事務所、浅野特許事務所
	【ベンチャー】	アンプレッション、くふ楽、セイヴェル、ダイレクトプラネット、ディー・エヌ・エー・リサイクルリング他
	【企業】	アデコキャリアスタッフ(株)、(株)JMAMチェンジコンサルティング、(株)ディスコ、(株)東計電算、トラスコ中山(株)、豊島(株)、日本アジア投資(株)、阪和興業(株)、(株)メリーチョコレートカムパニー、吉川運輸(株)他
	【農業】	類農園(三重県)
理系	【海外】	(ドイツ) Deutsche Bank(Frankfurt)、DZ, Bank(Frankfurt)、Heimatmuseum(Suhl)、Reisebuero, Info, Kur(Gelsenkirchen)、(フィリピン) スービック湾岸都市開発庁(SBMA)、オロンガポ市役所
	【企業】	エスエムジー(株)、NTTコミュニケーションズ(株)、キヤノン(株)、さくら情報システム(株)、日産自動車(株)、本田技研工業(株)、三菱電機(株) (株)メイテック、ユーシーカード(株) (株)日立製作所他